エンカウンター（ＥＮＣＯＵＮＴＥＲ）

第２１２号

2019 年 12 月 1 日

編集・発行人　〒224-0015　横浜市都筑区牛久保西 2-14-28　山口周三
電話　080-1232－0905
http://encounter.agape.gr.jp/

小西芳之助導源『わが主イエスよ』より（１２）

第 13 講　唯一つだけ

私の尊敬する人・恵心僧都

信仰というものは人間の考えを絶して居りますから、これは聖書を読んでも分からない。聖書の真理は聖書を読んだだけでは分りません。人間に啓示された真理ですから、これは、人に教えてもらわなければいけない。

私の最も尊敬する人を挙げよといったら、私は恵心僧都を挙げます。私の最も尊敬する人というのは、このごろははやらないかも知れませんが、私は恵心僧都。恵心僧都という人は、私思いますのに、キリストの天国からこの世に遣わされた人、歴史上において私の最も尊敬する人・恵心僧都は、これは天国から遣わされた遣い人であると。それはどういう目的で来たかというと、人類に、キリスト教以外の宗教の人々にキリスト教を説明するために日本に来た人、そ

ういうような気がする。日本では仏教が盛んですから、仏教徒にキリスト教を説明するために来た人、私はこれが恵心僧都だと思う。

　そうですから、キリスト教以外の宗教の信者にキリスト教の真理を説明するために来た人。これが恵心僧都です。これが日本に来た。Japan。そうですから、日本という国は、世界に向かってキリスト教を宣伝する義務と特権を持っている。

　藤田東湖は「正気(せいき)の歌」を歌って、「秀でては富士の嶽なり」と歌ったが、内村鑑三は日本の国に、日本の富士山に聖霊が下ったという夢を見た。日本という国は不思議な国であります。世界に、日本のように何千年と続いている国がどこにありますか。

「ただ一つ」の説明、ヨハネとパウロ

もし聖書で 1 カ所だけ選べと言われたならば、私は、今日ここに書きましたロマ書 10 章 9 節から 13 節まで、ここを選びます。もし、聖書でただ一つ、1 カ所を選べと言われたら私はここを選ぶ。

イエス・キリストは、…「ただ一つだけで十分だ」と言った。他のものはあってもいいし、なくてもよい。必要なものはただ一つだと言った。そしてイエスは、その必要なものはただ一つだということを説明しなかった。パウロに譲った。イエスは必要なるものはただ一つということをおっしゃったけれど、その一つというものはどういうものであるかという説明を知なかった。パウロが説明した。ヨハネが説明した。

ヨハネは「ただ一つ」ということを、イエスの必要なことをヨハネが説明した。どう説明したかというと、「イエス・キリストを神の子と信ぜよ」と、その一つを説明した。しかしながら、ヨハネは無学のただ人だから、その一つのことを、神の子のどこをどういうふうに信ずるかということは説明できない。パウロが説明した。そうですから、キリスト教をパウロ教と学者が言う。

マルタとマリアのたとえ

ロマ書の 10 章 9 節から 13 節までは、これはまだ世界のキリスト教の歴史に問題になっていない。しかし、「ただ一つのこと」が、人のために奉仕し活動することでないということは明らかです。そうでしょう。マルタとマリアの話で、イエスがここで説明した。マルタは間違っている、マリアが正しいということを言った。そうですから「ただ一つのこと」は、人に奉仕し、愛の行ないをし、愛を実行すること、そのことが「ただ一つのこと」でないということはこのイエスの例えで明らかです。

そうですから「ただ一つのこと」と言ったら、愛の行ない、人に親切にすることでないということがはっきりしている。どういうことかというとイエスはおっしゃらなかったけれど、イエスの言葉をじっと聞くことだということは、この例えで明らかです。

私はパウロのロマ書 10 章 9 節から 13 節までのこれが、そのただ一つのことなりと信ずる。これにはどういうことが書いてあるかというと、「主の名を呼び求める者は救われる」ということが書いてある。そうですから、主の名を呼び求める者は救われる。これがただ一つです。

恵心僧都の言葉

恵心僧都は「妙法のただ一つのみありければ、また二つなし、また三つもなし」と言った。「一つだ」と言った。仏教徒に向かって、よその宗教に向かって、人類の救われるのはイエス・キリストの贖いただ一つだと、そういうことを恵心僧都は説明した。仏教徒の人々よ、キリスト教の贖いという、人類に賜っているこの贖い、それが称名としてあらわれている。この称名の救いの他に人類に救いはないぞ、ということを明らかにしたのが源信です。

私は、源信が世界に現われてくる日がきっとあると思う。ロマ書10章9節から13節まで、これが必ず人類の歴史において、キリスト教の歴史において、恵心僧都の名をもって明らかになる日がきっと私は来るということを確信する。

知るも知らぬも天国へ

どうぞ諸君、君らはまだわが名によってまだ祈っていない。「わが名によって祈る祈りは必ず聞いてやる」とイエスは言った。私は、この教会に足を踏み入れた人は、必ず神様が救って下さると私は信ずる。私は祈っている。「この教会に足を一遍でも踏み入れた人は救ってください。イエス・キリストの御名によって祈る」ということを私は祈っています。そうですから私は、この教会へ足を一歩でも踏み入れた人は必ず神が救って下さるということを確信している。

私は「われだにも、まず天国に生まれなば、知るも知らぬも皆迎えてん。キリストの名によって祈って」。私は現世においてはこの教会の人の救われることを祈っておりますけれども、今度は天国へ生れたらキリストの名によって祈って、知るも知らぬもすべての人を天国へ引っ張ってもらうことを、神にキリストの名において祈るつもりでいるのです。この世においてはこの教会に来る人を救ってもらうことを祈っているけれど、今度は天国に生まれたら、「われだにも、まず天国に生まれなば、知るも知らぬも」すべての人を天国へに導くように私は祈るつもりにしております。

多くはない。ただ一つだ

「多くはない、ただ一つだ」、この口語訳は非常に原語に近い。原語そのままに訳している。マルチン・ルターは「多くはない」few　という字を略してしまった。……

「マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配って思い煩っている。しかし、なくてはならぬものは多くはない。いや、一つだけである」。多くはないと、ただ一つであるとイエスは仰せになった。ところがルッターは、「多くはない」ということをなくした。

必要なことは「わが主イエスよ」ということだけ

私は「多くはない」という言葉は、人は多くあるように思っている。そうでしょう。人間は信仰と行ないと二つが必要であるように思っている、そうでしょう。人間は複数にしなければ、救われないように思っているでしょう。

そうではない、ただ一つだとイエスは言いたい。簡単だぞと。救われるのは簡単だぞと、万人が救われるんだということをイエスは言いたい。そのためにイエスは贖いを遂げた。われらのために代わってイエスが救いのわざをしてくれた。これを贖いという。我等は「わが主イエスよ、わが主イエスよ。主は救い主だ」ということをもって足りている。必要なことはただ一つだ。「わが主イエスよ」と言うだけです。

われだにも、まず天国に生まれなば
　　知るも知らぬも皆迎えてん　御名によって祈りて
われだにも、まず天国に生まれなば
　　知るも知らぬも皆迎えてん　御名によって祈りて

アーメン。